

首都圏段戸会 会報

平成28年4月
第37号

発行責任者
首都圏段戸会
会長
野村親信
編集発行人
広報担当
村木央明

平成27年度総会・懇親会報告

高52回 近藤 佳子

秋の肌寒さを感じるようになった2015年10月31日(土)、アルカディア市ヶ谷にて、第43回首都圏段戸会総会が開催されました。

半年以上前からの世話人の方々による入念な準備のもと、当日は、現役の大学生から88歳の旧制岡崎中学の先輩まで総勢220名近くの方々にお集まり頂きました。

野村親信会長の開会のご挨拶に続き、古澤武雄岡高同窓会長からは2016年に迎える岡崎高校120周年記念事業の準備が進んでいること、杉浦慶一郎校長



杉浦慶一郎校長

からは文武両道で活躍している母校の様子をご紹介頂きました。郷里を離れて生活する首都圏の同窓



飯田皖子先生(前列右から5人目)

35回の佐藤千矢子さんより、「安倍政権の安全保障政策と政治報道」と題し、実体験を交

生にとって、この年次総会は母校の現状を身近に感じることでできる貴重な機会であり、総会に出席する楽しみの一つになっています。

今年、招聘恩師として、飯田皖子先生(社会)、小嶋輝久先生(英語)、尾崎浩仁先生(体育)にお越し頂きました。先生方からのご挨拶では懐かしい思い出話が飛び出し、会場が笑いに包まれました。その後の懇親会では、数十年ぶりの恩師と教え子の再会に、懐かしさで話が尽きない様子でした。

講演会は、毎日新聞社で論説委員をされていられる高



講師 佐藤千矢子さん(高35回)

えて解り易く解説して頂きました。このように、毎年第一線で活躍されている同窓生のご講演

を間近で伺えるのは、同じ学び舎で学んだ者として、大変刺激になります。懇親会では、ご退職された先輩方や現役でご活躍されている先輩方から大学生まで、普段の肩書きをしばし忘れ、同郷の言葉に戻って分け隔てなく会話を楽しめるのも、首都圏段戸会ならではの会だと思います。



小嶋輝久先生(中央)

初対面の方も多いと思いますが、懇親会終盤に、恒例となつている校歌斉唱の頃には自然と打ち解けて、笑顔が飛び交い、会場が温かい雰囲気にかい霧囲気に包まれる様子を拝見し、あらためて岡崎高校の繋がりの強さを感じました。



尾崎浩仁先生(右から2人目)

総会では岡崎ちなみに、



岡高グッズ販売コーナー

高校のグッズも販売されており、最近の種類も増えてきているとのこと。私も、ちょっと硬派な書体の校名入りのトートバッグを購入し、早速愛用しています。

今まで首都圏段戸会を盛り上げてこられた皆様に感謝するとともに、この会をますます発展させていくためにも、より多くの方々のご協力が必要になります。私自身、広報担当として関わっておりますが、ご興味がある方は世話人としてぜひご参加頂ければと思います。首都圏段戸会は、肩肘を張らず笑顔で和むことのできる会ですので、今まで総会に出席したことがない方も、お気軽にご参加下さい。お待ちしております。

次回の第44回首都圏段戸会総会・懇親会の予定

- 日時 平成28年10月29日(土) 13:00~17:00(開始・終了時間は予定)
- 場所 アルカディア市ヶ谷(私学会館)……JR、地下鉄 市ヶ谷駅から徒歩2分

古稀年次代表の一言

高16回 鈴木 弘恵

古稀を迎えた私たちの頃、これから、段戸会にお招き頂きありがとうございます。当日のインタビュ報告でお礼とさせていただきます。

史明さん メキシコ、ボリビア：中南

米の歌が好きで2年前からスペイン語を学び、いま上級に近い中級。

勢津子さん 愛車プリウスでお一人様

ドライブ。先日は朝5時に出発し高山山へ。午後5時には岡崎トウチャコ!!

多恵子さん 耳鼻科医のご主人のもと、薬剤師と事務を一手に引き受け「労働」の日々。休日は映画を見たり、京都まで小旅行したり。

親信さん ゴルフ、麻雀のほか段戸会への世話役も。2年連続で日経俳句にも入選。現在の抱負は、句集をつくること。自分史を書くこと。

雅利さん 540キロの中仙道、歩き続けていま滋賀まで。歩き続けられる秘訣はミズノの4Eのウオーキング



校歌斉唱する高16回の皆さん（筆者は右から4人目）

グシューズとか。

隆義さん 50歳から山登り開始で百名山を目標。70歳のいま、南米ペルーの4800mの山踏破というスゴ技。

達雄さん そば粉を本場北海道から取り寄せ蕎麦パーティーするほどの蕎麦打ち名人。奥深い蕎麦道をひたすら極めていきたいと。

昭親さん お隣のご隠居さんから頂いた1本のサツキから今や玄人はだしの腕前。その見事な咲きっぷりをにんまり見つめながらの日々。

真雄さん ゴルフ三昧の日々：シンゲルを目指し、あと一步のところというスゴ腕。その素敵な体躯からゴルフオンチの私も納得。お菓の知識の宝庫!!

晋さん 映画が好き。東京物語。最近は笛吹き童子。ユーチューブでヒヤラーリヒヤラーコ、聞いてます。

嘉夫さん 学会！、業界！で活躍の嘉夫さんはボートとしてることが好き。そこにクラシックが流れていれば最高!

弘恵 70歳のいま：薔薇をちりばめた真紅のドレスでウイーンわが夢の街、踊り明かそうを歌って思い残すことなし!! これからは孫を観客に童謡三昧かな?

総会出席者の一言

高7回 斎藤 悦子

私が段戸会総会に初めて参加したのは、農林年金会館で行われていた頃のことです。昭和29年の春の甲子園に出場した河合学さん（故人）からのお誘いがあったからでした。私が参加し始めた頃は、出席されている同窓生はまだ少なかったように覚えています。当時、名簿は手書き



同期の方と一緒に（筆者は右から4人目）

で先輩が作成されていた。常に作成し直す作業であったことでしょう。

そして、会場は変わりましたが、今は年に一度開催される段戸会総会に楽しい気持ちで参加させていただいています。以前は家庭の視線で社会と接していましたが、社会人として第一線で活躍されている若い方々や、大きな実績を残されてきた同窓生の皆様に総会でお会いして、それまでなかった社会との接し方や物事の見方を学べたのではないかと感じています。

2007年総会の二次会で、セブン会という名の同期会ができました。そのきっかけは、まさに総会出席者の一言からでした。代表の是津さん、連絡係の近藤さん、世話人の杉山さんの多大なる尽力により今も活発な活動が続いています。今春の会合は、「文の京（ふみのみやこ）森陽外ゆかりの地コース」の散歩旅行でした。このような活動もきっかけとなり、段戸会総会が益々盛況で楽しい会となりますようにいつも願っています。

高10回 山川 肇爾

段戸会の楽しみと言えば、まずは懇親会での同級生との歓談であるが、残念ながら昨年同様今年も十回卒の出席者は一人であった。従って、懇親会では聊か寂しい思いをした。世話人としては、来年は一人でも多くの方のご参加をお願いしたい。同期では

ないが、バレエ部の上田先輩の奥様とお話が弾んだ。同じ美合の出であり、妹と同級でもあり特に懐かしい思いがした。次なる楽しみは講演会である。特に今年のテーマは非常にホットな話題であり、活字には出ない裏話が聞けるのではと大いに期待していた。しかしそう言った野次馬の期待は裏切られた。しかし国防の危機が増す世界情勢の中で、如何に対処すべきかを考えるとき、憲法9条との深刻なジレンマを改めて認識できた。欲を言えば質疑応答の時間が欲しかった。賛否両論活発な議論で盛り上がったと思われる。

校長先生の近況報告も楽しみである。特に東大21名、京大25名、名大90名等難関大学への合格者の多さを聞くのは嬉しい。「おしいちゃん頭良いんだ!」と孫たちに対する権威は大いに上がる。子供は騙せないが、最後は酒井さんの音頭で歌う校歌である。思わずこみ上げてくるものがある。歳のせいとは思われな



筆者は左から3人目

高20回 北野 光敏

かみさん亡くして6年、同級女子に独身が多いのも多少の誘いか、2年振りに段戸会に出た。受付を通った先は見知らぬ老若男女で溢れていたが、すかさず北野君!と声を掛けられ、やがて半老人達の顔がああ頃の顔にタイムスリップ、これが『段戸会の醍醐味』だわな。また、段戸会ではその企画にも苦心がうかがわれ、今回の安保法案に関する



同期の皆さんと（筆者は前列左から3人目）

講演もタイムリーなものであった。講演者は一流新聞社の方で法解説が中心であったが、粗野な私には国会もマスコミも『戦争の原因と防止策』について、立法以前に何故もつと哲学

しないのか？ 大変不思議に思われるのである。例えば、①日清日露、及び、2つの大戦の根源的原因は何か？ ②先の敗戦以降、その原因はほぼ排除されたのか？ ③もし、ソ連や中国が日本を占領していたらどうなっていたのか？ ④米国による占領とその後の60年、70年安保は結局どうだったのか？ ⑤階級闘争や帝国主義論は資本主義だけを悪者にしていれば良かったのか？ などなど、特に、参政権を得る高校生諸君には、このような問い掛けにもビシッと主張できるような自分自身の哲学をしつかり創り上げ、今後の日本と世界の民主平和主義を力強く、且つ、心優しく支えるようになって欲しいものである。

高41回 中鉢 朋子

私は、建築設計事務所・不動産会社に勤務していましたが、平成27年に東京・巣鴨で、2名で不動産と建築設計・リノベーションの会社「(株)TQCLラボ」を設立しました。どうぞよろしくお願いたします。

今回、初めて首都圏段戸会に出席しました。私と同じ学年では重徳和彦さんが参加されていました。講演会では、6年上の先輩で、毎日新



筆者は左から3人目

自分の励みにもなりました。

私は建築設計の仕事をしておりますが、同じ業界で活躍されている比護結子さん、吉村靖孝さんとお話することができ、とても良い刺激を頂きました。

多くの先輩方、若い方々ともお話でき、久しぶりに応援団の応援も聴くことができ、参加させて頂けてとても良かったです。幹事をしてくださった皆さま、有難うございました。

岡高グッズが販売されていたので、エコバッグを購入しました。来年もまた出席をさせて頂ければと思います。

高56回 伊藤 友香



先輩と一緒に（筆者は右から3人目）

総会の存在は以前から存じておりましたが、機会に恵まれずなかなか参加することができませんでした。岡崎を離れて久しく、今では岡高に通っていたことも夢だったように感じることがあります。

「知り合いがないのでは？」「有名大学出身じゃなきゃ馬鹿にされるのでは？」という不安もありましたが、いざ参加してみると、多くの方にお声を掛けて頂き、楽しいひとときを過ごすことができました。色んな方が参加していらして、青春時代を懐かしんでいる方もいらつしゃれば、お仕事の幅を広げている方もいらつしゃるように思われました。懇親会の際に話しかけてくださった方の「同じ高校出身というだけでこんなにも良くして頂けるなんて驚いた。」という言葉も印象的でした。

懇親会の最後の校歌斉唱では、無意識に「天」を「そら」と、「希望」を「のぞみ」と読んでいる自分に気付き、岡高生だった事実を思い出すことができたような気がします。今回は残念ながら私の同期が参加していなかったため、次回は同期の人達に会えることを楽しみにしています。最後になりましたが、素晴らしい会を開催、運営してくださった方々に心より御礼申し上げます。

高63回 吉兼 峻史

総会の存在は以前から存じておりました。今回、初めて首都圏段戸会総会・懇親会に出席させていただきました。同期の間で、参加しているという話をあまり聞いていなかったため、雰囲気からわからず緊張の面持ちで出かけました。実際、高63回は自分1人だったのですが（笑）、温かく迎えてくださりとても嬉しく思っています。

懇親会が始まった直後、福山透先生にお声をかけていただき、大変恐縮いたしました。高校の大先輩と存じていましたが、最先端の研究をなさっているご高名な先生と院生の立場で、お話しできると



筆者は左から2人目

は思っています。次々と多くの大先輩方からお声をかけていただき、大変有意義な時間が持てました。年齢層も活躍されている分野も違う方々の間で、こんなにも話が弾むという事に驚き、母校を同じくする強い絆を感じました。このような貴重な機会は、これからも大事にしていきたいと思えます。

最後になりましたが、このたび高63回の世話人を拝命いたしました。母校とのつながりを大切にすることを役割をいたしたことに責任を感じると同時に、次回は必ず大勢の同期とともに参加しようと思心を決めています。

「首都圏段戸会」は 愛知県立岡崎高等学校の首都圏同窓会です。

公式ホームページ <http://dandokai.o.oo7.jp/>

首都圏段戸会

検索

●総会の写真がホームページから見られます！

- (1) 首都圏段戸会ホームページの左側にある「写真集」のボタンを押す。
- (2) 「新着写真」の中の「2015年 第43回首都圏段戸会総会」を押す。
- (3) 「総会前風景」「総会・講演会」「懇親会・二次会」の内、希望のものを押す。

第43回 首都圏段戸会総会・懇親会出席者 (平成27年10月開催)

来賓(岡高校長)	杉浦慶一郎	(高16回)	大山達雄	門野史明		吉村玲子	
来賓(岡高同窓会長)	古澤武雄		河合晋	木村隆義	(高35回)	板倉信吾 糸井真由美	
(恩 師)	飯田皖子		鈴木貞雄	鈴木勢津子		小川美季 佐藤千矢子	
	小嶋輝久		鈴木多恵子	鈴木弘恵		菅伸介 鈴木絵美	
(中47回)	神谷和郎		野村親信	横井昭親		鈴木俊英 松井寛人	
(高2・中51回)	青山敦夫	石川耕春	早稲田嘉夫	渡邊雅利	(高36回)	鈴木貴之 平松理生	
	今井敏夫	太田久	(高17回)	伊与田正彦	鈴木寛	(高38回)	佐野均 柴田哲良
	服部登		竹嶋栄子	武藤隆子		杉江剛 中西和幸	
(高3・併23回)	伊藤芳枝	宇津野隼千	山田博子			桃井聖司	
	鏑木道子	久保雅之	(高18回)	石原荘介	伊藤博邦	(高39回)	木村隆一
	後藤三千代	高木次男	音部昌宏	清水久雄		(高40回)	大田武 小嶋邦昭
	丹羽鼎	蜂須賀芳昭	(高19回)	石樽直美	木下武司	(高41回)	中鉢朋子
	松井淳子		近藤陽一	坂田徳雄		(高43回)	上田奏 比護結子
(高6回)	長瀬けい子		都築正行	時田和芳		吉村靖孝	
(高7回)	市川毅	近藤衛	野澤信一	福島安史	(高44回)	松田晴光	
	斎藤悦子	是津定利	福山透	村木央明	(高46回)	大川博	
	永田綾子	羽谷允	(高20回)	天野隆太郎	伊与田あさ子	(高47回)	小島義博 杉本いづみ
	三井豊美	村田與市	神尾由恵	北野光敏		(高48回)	羽佐田泰弘 藤井晋也
(高8回)	安藤逸平	杉浦嘉久	辻村貴典	成田雅則	(高50回)	石川義高 酒井亮	
	高橋道人	田中厚生	原田勝広	細井土夫	(高52回)	近藤佳子 清水雄太	
(高9回)	岡田敏夫	香月恵美子	山本良二		(高53回)	辻内直子	
	小林せき子	酒井治盛	(高21回)	阿知波茂樹	生駒仁志	(高54回)	安藤康伸 岡田尚博
	坂郁子	三浦政弘	小栗恵子	清水照雄		加藤真悟 加藤直也	
	若林忠晴		徳田登	兵藤幸治		松井博昭	
(高10回)	山川肇爾		山田俊文		(高56回)	伊藤友香	
(高11回)	今井哲夫	上田紀美江	(高22回)	上田洋子	斉藤光保	(高57回)	小田亜矢子 川口敦子
	太田栄之	永田宏	柴田哲谷	新庄弘之		(高58回)	鳥山順丘
	中根淳	服部豊治	(高23回)	清水郁夫	野々山浩	(高60回)	伊與田諒 岩月泰典
(高12回)	稲垣早苗	杉浦満智子	(高25回)	明保治男	戸田譲三	小田浩史 小室友紀	
	鈴木紀夫	鶴田尚弘	(高26回)	織田利彦	都築和人	嶋田優平 杉浦綾香	
	鶴田文男	西村史韶	山口知子			田畑志穂子 鶴田麻莉子	
	星野陽一		(高27回)	池田一三	大久保玉恵	福田知美 本多健太郎	
(高13回)	新井康夫	小森葆子	長田光雄	藤原波一		山本千尋	
	神道千秋	鈴木功一	山崎正枝		(高61回)	杉本南 鷺見浩樹	
	中浩之	藤田訓弘	(高28回)	三枝奈芳紀	酒井邦彦	(高62回)	加藤悠起 高羽芳彰
	本多正之		長坂光司			山本佳孝	
(高14回)	磯尾進	磯村澄江	(高30回)	石川定雄	松井伸介	(高63回)	吉兼峻史
	太田眞澄	大館眞弓	米津智徳			(高64回)	岩井優介 岡本大河
	金澤忠幸	糸田輝義	(高31回)	高原正之		鈴木崇生 扶瀬聡史	
	笹瀬修	長井佐紀子	(高33回)	松田かおり	山本守正	(高65回)	柿木勇太 黒川浩太郎
	中島綾子	水谷鏡子	(高34回)	板谷敏正	井上由美子		横字史年
(高15回)	杉崎慎一郎	満江信之	鈴木宏一	柘植千明			

人生お楽しみ中！

短歌とともに

高2回 武田 弘之

岡高2年生の夏から短歌を作り始めた。昭和23年の頃である。きっかけは、当時、短歌雑誌「三河アララギ」の会員であられた杉浦弘さんが国語の教師で、ある同級生の短歌作品を誉められたことに由来する。その作品は道にある石ころが夕方の光を受けて陰を延ばしているといった内容であった。生意気盛りの当時の私は「この程度の歌なら僕でもできる」と思って夏休みに短歌を作りはじめたのである。

当時は石川啄木を愛読した。中でも啄木が16歳の頃に作った

血に染めし歌を我が世のなごりにて
さすらひここに野にさけぶ秋

の一首に打ちのめされるような感動を覚えた。意味はよくわからないながら、青



春の命がけの叫びをそこに感じたのである。この一首を含む一連の作品には「石破集」という小題が付けられていた。私は校内文芸誌を作り、誌名を「破石」と名づけて発行した。

高校3年の秋の校内文化祭で応募した短歌に私は運よく1等と3等に入選した。選者は筒山吉郎先生。筒山先生は国語のほかに数学も教え、野球の監督として甲子園に行かれたこともある。先生自身も短歌を作っておられたが、私の入選作品には「とても僕にはかなわない作品だと思つたよ」と最大級の評価を頂いた。

卒業して早大文学部に入った私は、同志と短歌会を結成し、『標(しるべ)』という合同歌集を発行したりした。昭和29年、東京の教育出版社に入社して学習雑誌の編集に携わったが、そこでも社内文芸誌を発行して短歌作品を発表した。昭和30年、高校生雑誌を創刊することになり、投稿歌壇の選者に宮柊二(みやしゅうじ)先生を迎えたが、先生は三十年の長きにわたって選歌を担当して下さった。その間に私も先生の歌誌「コスモス」の会員となり、同誌の選者・編集委員を歴任した。そして宮先生は私の終生の歌の恩師となった。

昭和42年に五十首詠「声また時」で第13回角川短歌賞を受賞し、今までに歌集6冊、自選歌集1冊、評論集1冊を刊行した。現在、神奈川新聞の歌壇と「オーラル読物」(株式会社文藝春秋)の歌壇の選を担当し、よみうり文化センターの短歌教室ほか地元の短歌会講師を担当している。

まつさらの日記・手帳を取り揃え新年を待つ心ときめく

は最近の拙作。たまたま今年私の(人生最後の)年男に当たる申年である。一日一日をまつさらな心で迎え、歌を詠みつづけたい。

「晴球雨刻」を楽しむ

高13回 中 浩之

意味不明の表題、それは私が「晴耕雨読」にならって作った勝手な造語です。

球はボール、刻は彫刻の刻。つまり晴れたらほぼ毎日ボールを追いかけ、雨が降れば彫刻刀で版木を刻む生活を楽しんでいきます。三年前、六十九歳で退職して以来「毎日サンデー」です。

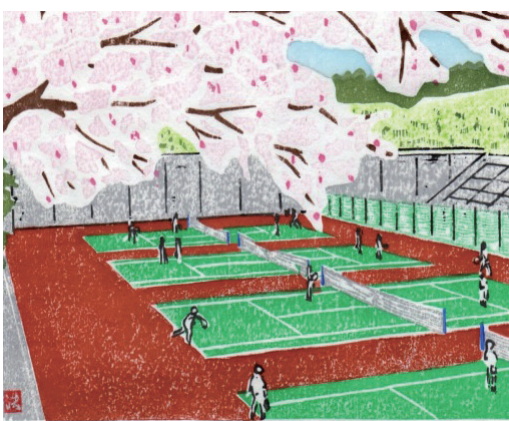
以前読んだ外山滋比古氏(愛知県出身)の著書で「道草の効用」について書かれたものがあり、仕事に夢中になりながらも仕事と何の関係もない傍らに目を向けることで「あてにしない偶然の発見」のあることが示されていました。

私は長らく研究開発の仕事をしておりましたが、前から本業の仕事とは関係のないことをやるのも研究開発につながるのではないかと思ひ、テニスと木版画は並行して続けようと考えておりました。振り返ると「研究開発」と「テニス」・「木版画」の「あてにしない偶然の発見」はあまりなかったように思いますが、今は現役をリタイアしたので、本業がなくなり、脇にあった二つの道草をしながら過ごしています。

しかし、テニスと木版画、一見何のつながりも無いように思われますが、最近二つのことをやるに当たって共通する大事なことがあることが分かってきました。

テニスの場合は、対戦する相手の人を見るのではなく、ラケットにボールが当たるまでボールをしっかりと見ること、そして木版画の場合は、版木を彫り出す前にしっかりと画(線)を見ることです。刀の刃をまず最初にどこに置くか、きつちりと決めることです。こうしないとボールは狙ったところに行かないし、彫り出した画像にゆがみや凸凹が生じる。この「あてにしない偶然」に気が付いてからほんの少しテニスの精度が上がります。版画の深みも増したような気がする。独りよがりの印象だが…。

昨年、肺がんが見つかり、右肺上部の三分の一を摘出したが、種々の幸運に恵まれ、他の臓器への転移もなく二つの道草をふらふらと楽しんでいきます。気ままな道草のできる境遇に感謝しながら…。



自宅近くのテニスコート風景 (木版画：横浜・本郷台)

なぜこの仕事を? — 弁護士の巻

「国際」 弁護士!?

高52回 今泉 勇

私は、資格を取って10年目の日本法弁護士です。ただ、裁判所にはほとんど行かず、基本的に企業向けの法的助言（企業法務）をしています。また、日本の六法はほとんど使いませんが、インターネットで海外の法令を調べます。米留学を挟み東京にて勤務していましたが、数ヶ月に1回海外出張があります。この文章が掲載される頃には、おそらくベトナムのホーチミンでの駐在を開始していると思います。

…などと自己紹介をすると、いったいどんな仕事をしているのだろうと、同窓生の皆様は、不思議に思われるでしょう。かくいう私自身（より正確にいえば、岡高に通っていた18歳の私）が自分の今のキャリアに一番驚いているかもしれない（大学時代ですら、一度も海外に出ませんでした）。



私は、特にアジア新興国に進出する日系企業を法務面からサポートする仕事をしています。現地の法令調

査、合併会社の設立、現地企業の買収、英文契約書の作成及びその交渉、そのロージングの支援、現地での紛争解決の対応、等々幅広く対応しています。国で言うところ、インド、ベトナムを中心に、インドネシア、バングラデシュあたりも対応しています。私の仕事の進め方の特徴として、（当たり前ではありませんが）常に現地資格弁護士と共同して対応します。英語であれば私もインターネットで情報収集はある程度できますが、相談を受けた個別具体的な事例が、現地法令が定めるルールに当たるとか当たらないのかは、常に現地弁護士と意見交換をしながら判断します。

…などというと、要は、法務を知っている翻訳業務か、と思われる方もいるでしょう。確かに、翻訳業務は、私の業務の重要な一要素です。ただ、実は、私の業務は、翻訳にとどまりません。現地の（あまり進んでいない）法制度を前提に、現地弁護士と新しい法解釈の可能性を議論したり、時に理不尽とも思える現地の法規制を外国投資家としての日本企業がどのように対処するかを依頼者と相談したりします。何より、「決めたことを決めたとおりやる」ことがものすごく難しい新興国において、日本の弁護士の経験を基礎に、ある意味「何でもあり」の新興国を相手に、依頼者の目的を達成するために論理を駆使して日々四苦八苦するのは、エキサイティングです。

…などというと、多少かつよく聞かれるかもしれませんが、私が海外業務を始めたのは、実は30歳になってからです。人生何があるかわかりませんが、これからは、新しく出会う仕事に先入観なく

正面から取り組んでいきたいと思っています。



高54回 松井 博昭

私は、友人の意見を聞いて一緒に悩んだり、解決策を色々と考えたりすることが好きな性格で、岡崎高校時代に弁護士という職業に憧れを持つようになりました。大学生時代、外国人の友人から法律相談を受けたり、法律事務所アルバイトをしたりするうちに、弁護士になりましたという気持ちが強くなり、司法試験を受験し、無事に合格しました。

現在、私が所属する西村あさひ法律事務所は、所属弁護士数が500人を超える日本最大規模の法律事務所であり、裁判官、検察官、外交官、公認会計士、医師、外国人弁護士等の多様な経歴を持つ弁護士が在籍しています。私は、労働法・紛争・不祥事対応等の業務を担当しており、過去には、団体交渉・労働審判を含むユニオン対応案件、食品リコールの民事調停・訴訟案件、インサイダー取引の不祥事調査案件等を担当して来ました。

このように話すときえは良いのですが、実際の業務は、大量の資料や過去のメールを基に事実調査を行う業務や、確認した事実関係を基に、法律上どのような処理されるべきかをリサーチする業務等、持久力・忍耐力が要求される業務が多く、帰宅が深夜や早朝に及ぶことも珍しくはありません。しかし、依頼者の方から「先生に依頼して良かったです」と言ってもらえた時や、辛抱強く事実調査

に取り組んだ結果、当初想定もしていなかった事実を発見することができた時には、弁護士という仕事ならではのやりがいを感じます。

また、私は、案件以外の公益活動として、日中法律家交流協会という団体に所属しています。この協会では、中国大使館領事部等と連携して在日中国人向けの無料法律相談を実施したり、希望会員を募って中国訪問を行ったりしているのですが、こうした行事のアレンジや飲み会を通じて、90歳を超える大先輩の弁護士や日本で専門家として働く中国人の方々と知り合い、気軽に付き合えることができ、それが私にとって大きな楽しみと



なっています。ちなみに、東京で法律師（中国法の弁護士）として働く妻とも、この協会の縁で結

婚することになりました。

私は、折角、中国人と結婚したのでそこから、英語だけではなく中国語もきちんと勉強して、日本で暮らす中国人や中国に赴任する日本人の方々のお力になれるように、勉強と業務に邁進したいと考えております。日中関係が順風満帆とは言えない状況にあっても、公私ともに日本の架け橋になることができればと願っています。

平成27年度 オープンキャンパス開催報告

高64回 小濱 直也



オープンキャンパス参加の皆さん (筆者は一番左)

5年前、私は岡崎高校の2年生として東大オープンキャンパスに参加した。私自身にとって東大オープンキャンパスは、東大を志望するきっかけとなった重要なターニングポイントであったため、参加する岡高生にも多くのものを感じ取ってもらえればと非常に気合をいれて臨んだ。案内役として参加した卒業生は、主に文系が学部生、理系が院生・東大卒の社会人の方々であった。岡高から参加する生徒たちは主に高校2年生、その段階では文理の振り分けも済んでいるため大学進学後の進路のことなども意識して途中からは団体を文理別に分けてそれぞれ案内するなどの工夫をした。また短い時間でも深く交流できればと考え、東大構内のマップと案内人の顔写真付きのプロフィールを掲載したパンフレットを作成し、生徒に渡すなどした。

そのような試みが功を奏してか、生徒からは非常に多くの質問を投げかけられた。受験のことををはじめ、どのような勉強ができるのか、どのようなサークル・部活があるのか。大学に入ったなら国際協力について考えたい、そういった場で活躍したい、そういうことは大学でできるのかという生徒もいた。生徒たちの質問には、よりリアルに直感的にわかってもらえるように答えようと努力した。使っている教科書を見せる、発表の資料を見せる、実際に授業を受けている校舎を案内するなどした。生徒たちも一つ一つ目に焼き付けられるように真剣に見学していたようであった。私たち卒業生としても、彼らに大学でできることの無限の可能性を伝えられたと感じている。



五竜岳山頂にて (筆者は前列左から2人目)



晩秋の尾瀬の旅

案内をする途中、生徒たちのそのような様子を見て、ふと5年前になんとなく参加した自分とは違い、彼らが大きな目標や夢をもって愛知からはるばるここまで訪ねてきた強い意志を感じた。私自身も痺を締めなおす思いであった。彼らには、これからまだ楽しい高校生活が待っていると同時に受験などの苦難も経験することだろう。だが、そこで乗り越えられる意志を彼らは持っていると感じたし、乗り越えた先にある感動を私たちは伝えられたと思う。今回の東大オープンキャンパスが彼らにとって将来を考える有意義な経験になったことを願う。

段戸サークル活動報告 「段戸山の会」のご紹介

高15回 満江 信之

2005年に発足した「段戸山の会」は今年で満10年を迎えました。

に響き渡り暫し望郷の念に駆られたひと時でした。

山の会の活動は、例年春は初心者も参加しやすい日帰り登山、秋は山小屋等一泊での登山、夏は登山経験者を対象とした二泊での登山を実施しております。この10年間で山行は32回、そのうち百名山は19座。最高峰は勿論2006年の富士山(3776m)、その他の3000mクラスとしては、南アルプスは2009年仙丈ヶ岳(3033m)、北アルプスは2010年白馬岳(2932m)、2012年北穂高岳(3106m)、2014年槍ヶ岳(3180m)等になりました。また、ふるさと愛知県の山には2007年段戸山(1152m)、2013年寧比曾岳(1121m)に登りました。段戸山山頂で合唱した校歌は三河の山々

2015年の春は山梨県白州の日向山(1660m)登山に17名が参加。真っ白な砂浜を思わせる山頂の姿(風化花崗岩)に驚嘆の声が上がりました。夏は北アルプス唐松岳(2696m)から五竜岳(2814m)への山の会初めての縦走に12名で挑戦。八方尾根に咲く可憐な花々を楽しみながら稜線を歩くこと約4時間、唐松山荘に到着。二日目は唐松岳山頂で美しいご来光に感動!そして雲まとう岩稜の道へ出発。数百mの眼下に横たわる黒部峡谷を感じながらいくつものクサリ場の難所を超えて昼過ぎ五竜山荘に到着。午後山頂を目指して岩場とクサリが続く直登ルートにアタック開始。山頂では全員が登頂の満足感にあふれる笑顔いっぱい記念撮影となりました。秋の山行は尾瀬を訪ねる山旅。沼山峠から尾瀬沼を通り清水までの一泊二日の行程。草もみじに覆われた木道と周りの見事な紅葉、朝もやに浮かぶ幻想的な装いの尾瀬沼、そこに流れる尺八の音色など晩秋の尾瀬を満喫した旅でした。それぞれの山行では下山後の温泉と地元の料理とお酒での盛大な反省会が楽しい締めくくりとなります。興味のある方は是非ご参加ください。

平成27年度 首都圏段戸会 会計報告・監査報告

会計及び会計監査の方々のご尽力により、平成27年度会計報告・監査報告がまとまりましたので、ご報告いたします。
 なお、会計報告・監査報告は、次回の第44回首都圏段戸会総会（平成28年10月29日開催）において、会員の皆様の承認を経て、最終的に確定いたします。

貸借対照表

平成27年12月31日現在 (単位：円)

科 目	金 額
I 資産の部	
現 金	0
通 常 貯 金	1,718,818
郵 便 振 替	3,790
資 産 合 計	1,722,608
II 負債の部	
未 払 金	0
負 債 計	0
III 正味財産の部	
正 味 財 産	1,722,608
負債及び正味財産合計	1,722,608

収支計算書

平成27年1月1日～平成27年12月31日 (単位：円)

科 目	金 額
I 収入の部	
10月総会懇親会費収入	1,148,000
10月総会時運営協力金	269,000
運 営 協 力 金	1,211,300
寄 付 金	30,000
受 取 利 息	273
当 期 収 入 合 計	2,658,573
II 支出の部	
平成26年総会費用	60,000
10月総会懇親会費用	1,356,590
会 報 費 用	957,779
世 話 人 会 費 用	110,330
オープンキャンパス	11,976
雑 費	42,632
送 金 振 込 手 数 料	40,110
当 期 支 出 合 計	2,579,417
当 期 収 支 差 額	79,156
前 期 繰 越 収 支 差 額	1,643,452
次 期 繰 越 収 支 差 額	1,722,608

監査報告書

首都圏段戸会の平成27年度（自平成27年1月1日 至平成27年12月31日）の計算書類は適正かつ正確であることを確認いたしました。

平成28年1月29日

会計監査 辻村 貴典
 会計監査 戸田 謙三

平成28年度世話人

- (高2回)服部 登
- (高3回)丹羽 鼎
- (高6回)有馬 弘政
- (高7回)是津 定利
- (高8回)杉浦 嘉久
- 田中 厚生 広報
- (高9回)岡田 敏夫 広報
- (高10回)山川 肇
- (高11回)永田 宏
- 中根 淳
- (高12回)鶴田 文男
- 成瀬 徹
- (高13回)中 浩之
- (高14回)磯 進
- 水谷 鏡子
- (高15回)神谷 国広
- 満江 信之
- (高16回)鈴木 弘恵
- 野村 親信 会長
- 横井 昭親

- (高17回)伊奥田 正彦
- 山田 博子
- (高18回)伊藤 博邦
- 音部 昌宏
- 清水 久雄
- 山内 恵
- (高19回)都築 正行 会計
- 福山 透 情報
- 村木 央明 副会長・
- (高20回)天野 隆太郎 企画
- 辻村 貴典 会計監査
- (高21回)小栗 恵子
- 山田 俊文 副会長・
- (高22回)上田 洋子 書記
- (高23回)野々山 浩三 会計
- (高25回)戸田 譲三 会計監査
- (高26回)織田 利彦 事務局長・
- (高27回)長田 光雄 企画
- 岸 洋平 会計
- 山崎 正枝
- (高28回)酒井 邦彦
- (高30回)米 津智

- (高31回)高原 正之 企画
- (高34回)板谷 敏正 事務局長・
- 井上 由美子 情報
- (高35回)菅 伸介 副事務局長・
- 糸井 真由美 企画
- 小川 美季 会員
- (高36回)平松 理生
- (高38回)中西 和幸 企画
- (高40回)大田 武 会計
- (高41回)中鉢 朋子
- (高42回)長野 麻子 広報
- (高43回)八田 益之
- (高44回)松尾 直樹 企画
- (高45回)筒井 貴之 情報
- 西浦 瑞恵
- (高46回)朝岡 大輔 広報
- 大川 博
- 小椋 俊博
- (高47回)杉本 いづみ 会員
- (高48回)藤井 晋也
- (高50回)鳥居 福代 情報
- (高52回)今泉 貴雅

- 清水 雄太 情報
- 近藤 佳子 広報
- (高53回)石井 貴大
- 辻内 直子
- (高54回)安藤 康伸
- 岡田 尚博 広報
- 加藤 直也 広報
- (高57回)川口 敦子
- (高58回)石川 航己 企画
- 鳥山 順丘
- (高60回)篠原 国智 書記
- 杉浦 綾香
- 本多 健太郎
- 吉村 圭吾
- (高61回)辻 翔太
- (高62回)粟津 文香
- (高63回)吉兼 峻史
- (高64回)藤岡 進也
- 細井 美裕
- (高65回)村松 旺

編集後記

「総会」というと、なんとなく堅苦しい感じだし、出席している人も何か凄いなばかりじゃないかな。とチヨット敷居が高くて、行きにくい雰囲気を感じている方や、一人で رفتっても話す人もないし、面白くないのではないかな。と心配をされている方が、会員の中には、いらつしやるのではないかと思います。でも、「総会・懇親会報告」や「出席者の一言」や写真を見て頂くと、今までのイメージが少し変わられるのではないかと……

私も最初に出席した時に、「どうして初めて会った知らない人と、こんなに自然に打ち解けて話ができるのか？」と不思議でしたが、多分、同じ「岡高生」だからという安心感のようなものがあつたからだ、後から気付きました。

ただ、感じ方は人それぞれ。

「今度は、貴方が出席して、感じて下さい！」ということが、本号を編集して書いて、一番強く思ったことです。(村木)

段戸サークルのお問合せ先

皆さまの参加をお待ちしています！

- “段戸囲碁会”
 (代表幹事：藤田 訓弘 高13回) kfujita@muc.biglobe.ne.jp
- “段戸音楽会”
 (幹事：石川 航己 高58回) koki.ishikawa.49@gmail.com
- “段戸句会”
 (幹事：小森 葆子 高13回) shigeko_komori@ybb.ne.jp
- “段戸山の会” *本号7ページに活動報告が掲載されています。
 (幹事：満江 信之 高15回) nmitsue@ae.auone-net.jp